

自己評価票 A棟 樋口真弓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で考え話し合いで決め、地域密着型サービスの役割を理解し独自の理念を作成している。	○	常に理念を掲げてケアを見直す姿勢を保つよう努めている。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの玄関、スタッフルーム、休憩室の目に入る場所に掲示し、日常的に意識できるようにし、日々のサービス提供に反映できるよう取り組んでいます。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関先や各ユニットに掲示し利用者や家族等が見えやすくわかりやすいようしている。ホーム便りや家族へのお知らせで、理念や理念に基づいた実践を伝え理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域・近隣の皆さんに気軽に立寄って頂ける様に声掛け働きかけしています。地域行事にも積極的に参加している。小中学校の体験学習やボランティア活動に協力している。	○	地域で唯一のグループホームとしての自覚を持ち、認知症への理解を広める活動に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘事項に関して早めに改善に取り組み職員会議で報告、検討し改善に努めている。自己評価は職員も一緒に取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加を促す取り組みを行っています。自己・外部評価の結果を報告し改善策について意見交換を行い職員のサービスの質の確保・向上につなげている。	自己評価の報告
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回の広報誌を配布している。事故があった場合状況を即時報告している。外部評価の結果を報告している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で制度の理解に努め、職員会議等で報告していますが活用できていません。	○ 権利擁護事業・成年後見制度の研修講演に参加し、全職員が理解できるよう努めたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修に参加し内部報告を行っている。虐待発生時のマニュアルも作成されている。虐待はしない意識を強く持ちケアに当たっているが、無意識に言葉による虐待をしていないか不安も感じている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等にホームの方針や取り組み等について説明し理解して頂いている。退居時は契約に基づき十分に説明を行い同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ 利用者の言動から本人の不満や意見等を見つけ職員で話し合い対応するようにしている。意見を出しやすい雰囲気作りや働きかけは行っている。	利用者が遠慮や我慢をしている事も考えられるので、職員一人ひとりの対応の見直しや家族からの聞き取りも行っていきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は1ヶ月1回領収書を添付し報告している。家族の来荘時又は、外出先で会った時は状況・状態に応じて説明させて頂いている。遠方の家族には、定期的に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ 玄関、棟内に意見箱を設置していますが活用されていない。家族より直接相談・意見・苦情があった時は検討しサービスに反映させている。	ホーム行事に会わせて家族懇談会を開催し介護や運営に対する意見を聞き反映させたい。(12月に予定しています)
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議・ユニット会議で話し合い検討している。月1回各事業所が集まっての全体会議を開催し職員の意見を提案できる。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々支援できる人員配置になっていきます。利用者の要望には可能な限り対応できるよう人員調整や勤務調整をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員配置する時は、利用者に十分に説明し理解して頂いています。又、新しく担当する職員に詳細に引き継ぎをおこなっている。現在離職者もなく馴染みの職員で支援している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の確保、向上に向け研修・受講その後報告会を行い職員に周知している。内部研修は、計画されていますが、定期的に開催されている。	○	内部研修を行い介護技術の向上に努めたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人、他ホームとの相互訪問を行っている。いこくま荘・ゆうなぎの里と交流あります。夕涼み会の参加・招待・紅葉狩りの合同行事も行っています。	○	下北地区同業者との交流・訪問交流によりサービスの質の向上に繋げたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の業務の中での会話で、ストレスの背景等を聞き相談助言している。（仕事の態度等から疲労やストレスが感じられた時は声掛けしている）	○	悩み、ストレスを個々に聞く時間の確保
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の労働条件を整えている。資格手当の支給があります。有給休暇が取りやすいよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の希望等を把握し家族の思いや希望を受けとめ入所して頂けるよう信頼関係を築くよう心掛けている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを見極め必要なサービスに応じ地域包括センターと連携を取っています。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合は、利用者・家族の意向にそうよう自宅訪問しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の楽しいこと、つらいこと等に共感しています。利用者にはそれぞれ出来る部分のお手伝いをお願いし、日常生活の習慣として実施されています。又、調理の仕方や保存・縫い物などのアドバイスをして頂き利用者と職員が共同しながら生活しています。	○	もっと一緒に行動する機会を多く持てれば良いと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは情報交換を入居時から常に行いケアプランを共有し共に支える関係を作っている。必要に応じて受診への協力をお願いし、相互理解の下に、健康管理している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係に配慮し、家族がホームに来やすいよう働きかけをしている。遠方の家族には、電話・手紙で連絡しています。用事の際には本人にも電話口にて会話を楽しんで頂いています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて馴染みの場所や友人・知人宅に電話で連絡を取り持ったり、外出支援を行っています。手紙・宛名など代筆しています。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームでの共同生活が気兼ねなく安心して出来るよう、利用者同士の関係づくりには特に配慮し全体を把握し孤立しないよう努めています。	○	利用者同士が共に助け合い支え合って暮らして頂けるようケアします。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も家族に来て（立ち寄って）下さるように声掛けしている。	○	今後も関係を断ち切らない付き合いを意識して行っていきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との1対1でゆっくり話をし意向を聞き取るよう努めています。必要に応じて家族等から情報収集し参考にしています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当を中心にアセスメントを行い、ケアカンファレンスにおいて検討しています。その際家族からも情報収集しています。	○ スタッフ会議にて職員全員に報告している。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中（生活）で、職員は現状を把握し記録している。生活リズムや心身状態の把握に努め職員間の申し送りを密にしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位であることを確認し、本人の意見を聞き尊重し計画を作成します。家族にも説明しています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を明示しており、状況の変化に応じて話し合い見直している。再度アセスメントとケアカンファレンスを行っています。新たな計画の作成が遅れる事がある。	○ 適時見直しをして介護計画に基づいたケアが行われるよう習慣づけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録記入、実践状況はユニット会議や申し送り等で報告しています。ユニット会議にて会議計画に添って支援されているか実践した結果報告検討されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に自主サービスの開発としては取り組んではないが、本人や家族の要望には、利便性に配慮し職員の業務を限定せず柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各行事等は民生委員・ボランティア・地域等の協力が得られている。ウイングの図書館を利用している。消火避難訓練は消防署に協力又救急救命の実施をしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所外のケアマネジャーとの連携は入退去時のみ行われている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは随時情報交換を行い特に入所判定会議や入退去時の相談は密に行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診始め緊急時も適宜受診し、家族の了承の下必要な治療を受けている。また必要に応じて家族と医療関係との話し合いを行っている。受診受診記録の作成をしている。	○	遠方の受診時は本人の状態を家族に理解して頂き同行をお願いする。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(重度化・重症化) 必要に応じて専門医の受診を行なっています(むつ病院メンタル科)。	○	認知症の医療専門医の(一人ひとりの状態に応じた)助言が欲しい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は配置されており、適宜利用者の健康管理等について各職員に説明している。健康管理の支援や病院の看護師に相談助言を頂いている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院経過や早期退院に向けた医療機関との話し合いは行われている。また、利用者の状態に応じて家族も含め話し合う場を設けている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応については、家族とや医療機関と話し合っている。重度化した場合の対応に係わる指針はあるが、終末期の対応について方針の共有が出来ていない。	○	ターミナルケアの研修を重ね、重度化や終末期の対応を共有して、今後の変化に備えたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化している利用者はいまさんが、医療関係と話し合いはされてる。終末期の支援については十分な準備が出来ていない。	○	利用者の今後の変化に備えて対応を検討し、出来る事、出来ない事を見極めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の状況報告を移行先へ詳細な情報提供を行っています。また、口答での情報提供もしています。	○	今後、近隣の特養等への住み替えも考えられ、ダメージの防止には丁寧に取組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言動を拒否、否定しない。利用者のプライバシーに配慮した業務を心掛けている。	○	個人情報、ケース記録を記入して保管している。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いを表現できるよう働きかけたり、利用者の意思、自己決定できるよう対応しています。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合った柔軟な支援をしている。状況に合った支援を心掛けています。時に職員側の業務が優先している事がある。	○	優先すべきは何かを再確認し、利用者がどうしたいのかを一番に考える支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者のこのみで衣類を選んだり、購入して貰っている。理美容も本人が希望する店を利用したり、ホームに出張して貰っている。お化粧品のお手伝いをお願いする方もいます。	○	外出時は、おしゃれをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の調理法や準備等職員も一緒に行い食している。後片付けも一緒に行っています。	○	男性の方も一緒に参加を促したい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好物（品）を把握し状態に配慮しながら取り入れています。買い物も同行支援しています。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンに応じて事前誘導を行い、記録把握している。羞恥心、プライバシーに配慮し速やかに行うよう努めている。	○	尿取パットの使用を減らすよう、定期的に見直しながらか取組んでいきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週二回を目安に体調や本人の希望を踏まえて対応している。声掛け自己決定にて入浴して頂いています。入浴できない場合は清拭・足浴で清潔を保持している。	○	出来るだけ利用者の希望に添う様工夫し入浴を楽しめる支援をしていきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。寝付けない場合は、付き添ったり会話、飲み物を提供する等対応しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	軽作業でも仕事の役割があります。行事等には、参加・見学を行い利用者全員又は少数でのドライブ等をしている。気分転換が出来るよう散歩や日光浴の支援をしています。	○	利用者の楽しみを知り、支援する取り組みを積極的に行い、張り合いや喜びのある生活につなげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望に応じて金銭管理が行えるよう支援している。可能な場合には受診の支払いは自分で行って頂いてます。買い物時レジでの支払いを行って頂く様支援してます。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅・知人・親戚等への送迎等は日常希望があれば外に出る機会を作っています。随時気晴らしのドライブも行っている。スーパー・図書館他。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	願いが叶えられるよう、必要に応じて家族等と相談し実現に向けて取り組んでいます。行きたい場所は把握しているが、状況的に困難な場合もある。可能な限り支援している。	○	家族と外出・外食できるよう相談し実現している。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を使用する時は、気兼ねなく活用できるよう配慮し、手紙の投函等を支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がいつでも気軽に訪問出来るよう柔軟な対応を行い、一緒に過ごしやすい雰囲気づくりを心掛けている。又、家族等の宿泊の希望に応じる体制も整っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢でケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族に説明・同意を得ている（夜間のベット柵使用の場合）。	○	拘束の解除に努める。やむを得ず拘束する場合の手順を明確にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、常に鍵は掛けない事としています。外出・散歩時は職員が必ず付き添う支援を行っています。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室で過ごされている利用者には、こまめに声掛け・安全確認を行っている。夜間は一時間に一回の巡視を行っています。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な洗剤・漂白剤等の保管場所は決まっています。包丁は手の届かない・目の付かない場所に保管、保管には注意をはらい危険防止をしている。利用者持参の果物ナイフ・はさみ等は預かり又本人持ちの場合は保管場所の確認をさせて頂いています。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を回覧し全職員が常時確認できる場所にあります。スタッフ会議で、検討・再発防止に向けた話し合いを行っています。	○	事故発生後は市町村・自宅への報告をすみやかに行なっている。 村へは事故報告書を提出しています。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置対応の実施・急変・事故発生時のマニュアルもあり従っています。	○	定期的な救急救命の研修や応急手当も行っていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回ホーム全員で訓練を行っている。日中だけでなく夜間を想定した避難誘導を行っています。火災時の対応について、住民や警察署・消防署等からの理解・協力が得られるよう働きかけを行っている。各居室にスプリンクラー設置され現在貯水設置中です。	○	夜間避難訓練の実施はしている。災害発生時に備えて、食料・飲料水等は用意している。毛布等を多く用意したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者ごとにリスクについて職員間で把握し家族に説明している。利用者の状況に応じて見直しをしている（報告している）。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の通常の状態を把握し、早期に体調の変化に気づくよう努め、記録をとり職員間で情報を共有している。必要時は医療機関に相談している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について利用者の個人ファイルに綴っており、いつでも確認出来る。薬変更時は受診記録ノート・口答で申し送りをしている。誤薬等がないよう職員二人で確認している。服薬による変化時は、記録し医師に報告している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便に努め活動（散歩・体操等）を促している。食材やメニューの工夫を行っています。個々人に合わせて下剤の使用もしています。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア、週2回の薬の洗浄をしています。困難な方には一緒に支援をしています。定期的な歯科受診、指導をお願いしています。	○	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを実施していく。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量・食事摂取量の記入はされている。カロリー計算はされていませんが、体重測定・健康診断により栄養状態の参考にしている。	○	定期的に栄養士の指導・助言を受ける予定だが実施出来ていない。栄養バランスのとれた献立にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	対応マニュアル等に基づいて学習の機会を設け感染予防に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎日熱湯消毒している。 食べ物の残しはそのつど処分しています。 検食は2週間保存、冷蔵庫清掃日整理日あり実施されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターの花・玄関周りに装飾をし入りやすい雰囲気作りを行い受け入れをしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の花・飾りを工夫しアットホームな空間作りをしている。室内の明るさも照明やカーテンで適宜調整している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がそれぞれ落ち着ける場所を確保している。食卓テーブルやソファの位置を変えるなどして、思い思い過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	テレビ・ラジオ・タンス・ポータブル等持参され ている方も居ます。また利用者によっては馴染 みの物を置いているが少なくスッキリされている。 家族に対して働きかけている。	○	馴染みの物を持って来て下さる様声掛けしたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気を定期的に行っている。ホール内の温度・湿 度を確認し適宜温度調整しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホール・トイレ各居室に手摺りを設置。すべり止 め装着しています。利用者の身体状況の変化に応 じて環境改善の工夫、必要に応じて車椅子を用意 しています。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の場所間違いを防ぐため利用者一人ひとりに 表札を掲示しています。写真を貼ったり個々に合 わせて扉にも工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	敷地内を活用して、ホーム前には畑を作り生育や 収穫を楽しんでいる。花だんに種をまき花を植え 水やりを行っています。前庭にベンチを置き日光 浴や散歩コースになっており、くつろげる様活用 されている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、地域密着型サービス事業所として、地域とのつながりを大切にしています。地域で開催される行事、また、当ホームで行う行事にはお互いに参加しあい、また、地域住民、行政機関、関係機関とのつながりを大切にしています。また、ホームで生活する入居者に対しては、本人のこれまでの暮らしを大切に、その人らしさを追及した生活を支援するとともに、その人の持てる力を最大限に引き出し、入居者と職員が家庭的な環境の下、生活を共にしているホームです。